

4. 土地・自然特性

津南町の土地・自然特性

- ・津南町は、日本有数の河岸段丘の地形を有した地域である。そのため、地域内の高低差が大きく、道路のネットワークもその地形に沿って形成されているため、急勾配が生じる地域も存在する。
- ・そのため、路線バスが運行できない地域や運行できるが安全面に問題がある地域も存在するため、公共交通空白地域が存在する。
- ・それらの公共交通空白地域への移動手段として「ひまわりバス」が運行している状況である。

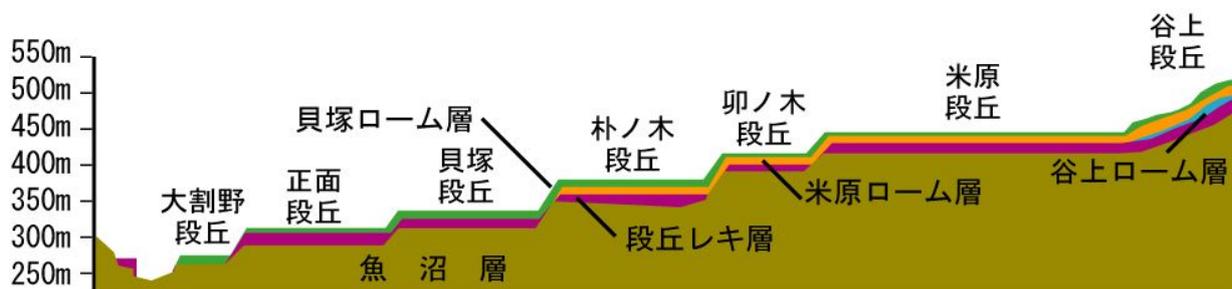


図 21 津南町の地形状況及び断面図

津南町の積雪・降雪状況

- 津南町は河岸段丘の地形で高低差が大きい上に、豪雪地域（2008年1～3月の平均気温は-0.1℃、平均最大積雪深188cm）である。
- 冬期に対応した運行形態・車両形式の検討が必要である。また、冬期は、無雪期に比べ運行ダイヤの遅れ、バス停での待ち時間の延長など、バス利用環境が大幅に変化するため、それらの問題に対応する必要がある。

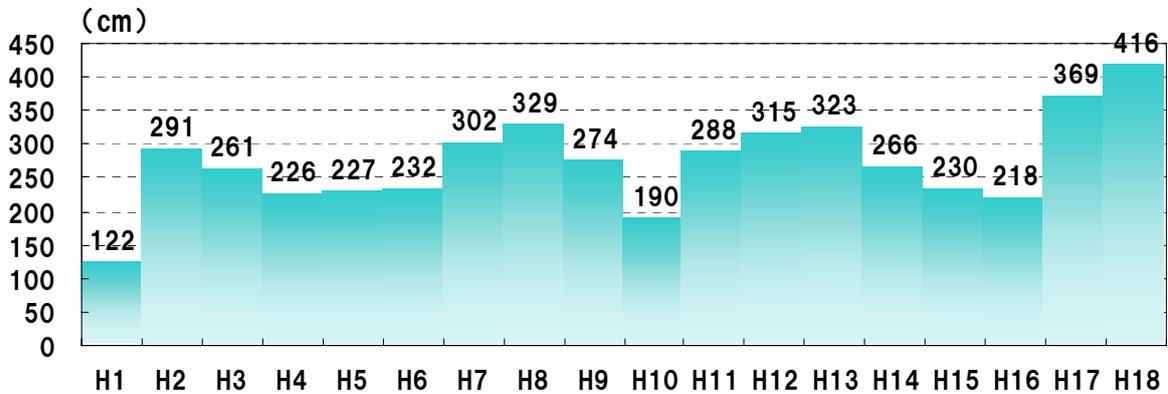


図 22 津南町の最深積雪の推移

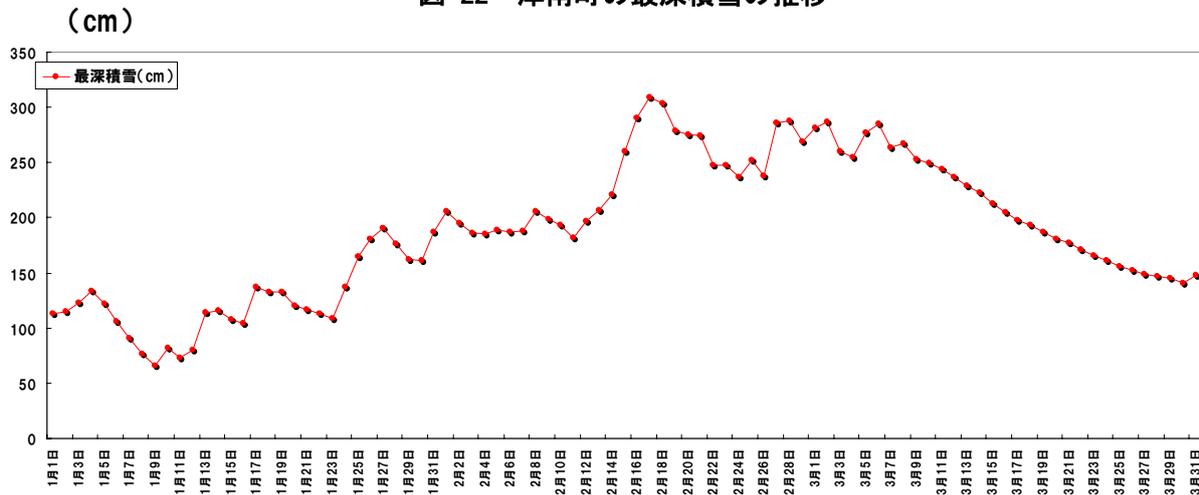


図 23 津南町の最深積雪の推移（2008年1～3月データ）

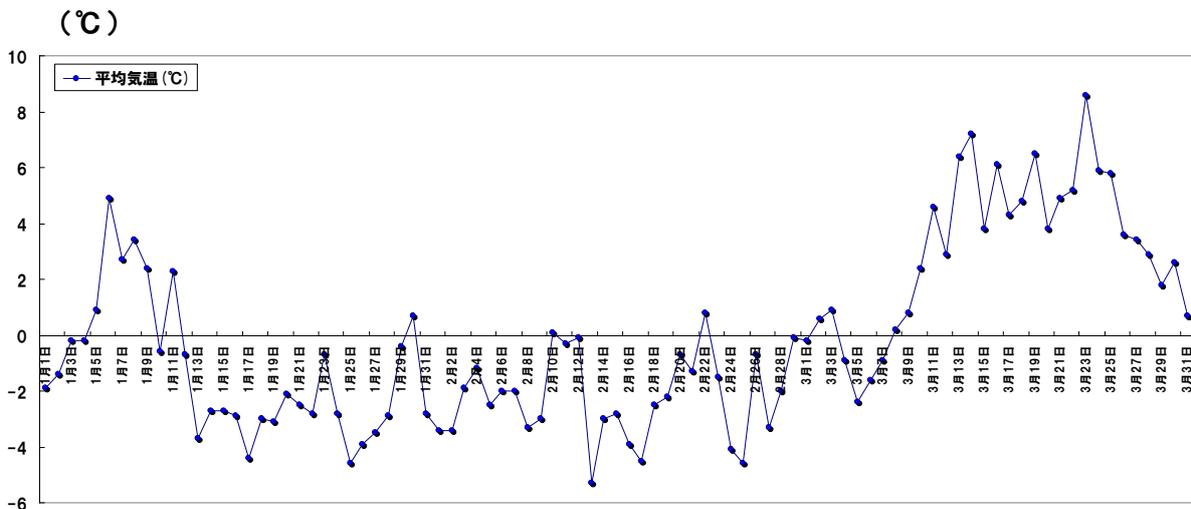


図 24 津南町の気温の推移（2008年1～3月データ）

※津南町資料及び気象庁 HP

5. 津南町の概況及び公共交通の現状整理結果

津南町の概況及び公共交通の実態を整理すると以下のとおりとなる。

津南町の概況

【高齢者人口比率が高い】

- ・津南町の高齢化率は35.2%。(11,719人中4,125人が65歳以上)
- ・特に結東、所平、大谷内等、山間部の高齢化率は60%以上の地域も存在。
※H17 国勢調査

【通学流動、教育関連動向】

- ・津南中等教育学校の開校に伴い、他地域からの通学が増加傾向。
- ・就学児童の減少により、小学校の統廃合がH22年度以降実施される予定。

【通院流動】

- ・津南町の各集落から津南病院、隣接市町村への通院流動がある。
- ・通院の移動手段のほとんどが自家用車の移動で公共交通が利用されていない。

【津南中心部に主要な施設が集中】

- ・津南町の主要な施設は、町中心部に集中している。
- ・日常生活を営む上で町中心部への移動は不可欠。

公共交通の実態

【鉄道：利用者は年々増加傾向】

- ・津南駅・十日町駅の1日の乗車人数が増加傾向。
- ・津南高校の廃校、津南中等教育学校の開校に伴い、新たな交通流動が発生し、鉄道利用が増加している。

【バス：運行本数にバラツキが存在。山間部への路線は平均乗車率が低い】

- ・津南～十日町間の路線バスは運行本数が多いが、その他の路線は運行本数が少ない。
- ・平均乗車密度を見ると山間部と津南中心部を結ぶ路線は平均乗車密度が低い。

【タクシー：3社がタクシー事業を展開】

- ・津南町内には、タクシー事業者が3社。津南町に本社のある事業者は津南タクシー、その他の事業者は営業所のみとなっている。

【スクールバス：小・中学校、園児に対応したきめ細かいサービスの提供】

- ・スクールバスについては、各地区の特性・実情に合わせた形で運行している。スクールバス、スクールタクシー、園児送迎タクシーなど様々な運行形態で実施している。

【ひまわりバス：運賃無料のため、他の交通手段への影響も考えられる】

- ・ひまわりバスは通院患者や高齢者の方を対象にした無料バス(隔日・2往復運行)である。
- ・公共交通空白地域を運行するバスであるが、通過地域への対応も図っているため、他の交通手段への影響が考えられる。

【交通関連経費・コスト増大】

- ・津南町が交通関連経費として拠出している費用は全体で約8,500万円(路線バス、スクールバス、ひまわりバス経費等)。

土地・自然特性

【河岸段丘及び豪雪地域により路線バスの運行が困難な地域が存在】

- ・日本有数の河岸段丘を有した地形で勾配が急な地域がある。バスの乗り入れ、運行が危ない箇所が存在する。
- ・冬期は豪雪であるため、バス停まで行けない利用者がいると想定される。
- ・また、バスの運行時間帯・タイヤが乱れることも想定される。

津南町の公共交通を取り巻く環境整備状況

- ・津南町には、鉄道(JR飯山線)路線バス、ひまわりバス(福祉バス)、スクールバス、タクシーが存在。

- ・津南町内を運行するバス交通は、3種類あり、料金の支払が生じる路線バスの利用者は減少傾向。

- ・鉄道は、町中心部・一般国道117号から信濃川を挟んだ位置に駅がある。
- ・津南町では津南駅・越後鹿渡駅への乗入れバスはあるが運行本数3往復/日と少なく、乗り継ぎ接続対応が図られていない。

- ・路線バスは、津南町の東西軸である一般国道117号には約20本/日の運行があるが、市街地と山間部を結ぶ南北軸は、5本/日未満と少ない。

- ・「ひまわりバス」は運賃が無料のため、運行しただけ運行経費がかかる。
- ・「ひまわりバス」が運行している地域と運行していない地域がある。

- ・「スクールバス」は朝・夕の登下校対応の運行だが、路線バスと運行時間帯、ルートが重複しているところも存在する。

- ・津南町にはタクシー事業が3社おり、地域の規模にしては多い(競争が激化)。

現状整理から想定される問題点

交通弱者に対応しきれていない公共交通体系

公共交通空白地域である山間地への対応

- 高齢化率の高い山間部地域へ路線バスがなく、隔日・無料運行の「ひまわりバス」に頼らざるを得ない脆弱な公共交通ネットワークとなっている。

通学への対応

- 小学校の統廃合、津南高校の廃校、津南中等教育学校の開校などの教育環境の変化に鉄道・路線バスが対応し切れていない。
- 小学校・中学校はスクールバスでの通学が定着し、路線バスとスクールバスとの競合が発生している地域も存在する。

通院への対応

- 通院患者や高齢者対応として隔日2往復、運賃無料の「ひまわりバス」で対応している。
- しかし、「ひまわりバス」が運行していない地域では路線バスを利用し料金を支払っているなど不公平感が存在する。

バスサービス水準の格差

中心部と各集落でバスサービス水準に格差

- 津南中心部と山間部の各集落との間には公共交通サービス水準に大きな差が生じている。(人口集積の小さい山間部の集落は、バスの利用需要が小さいため、津南町内でバスサービス格差が生じている。)

ひまわりバスの運行によるバスサービス提供に格差

- 「ひまわりバス」を利用できる地域と利用できない地域が存在し不公平なバスサービス提供が行われている。

社会情勢の変化によるバスサービス提供の危機

人口減少に伴い、今後の行政経営が難しくなる可能性がある

- 人口減少、少子高齢化に伴い、津南町の財政状況は今後、厳しくなることが想定される

公共交通サービスの提供・維持への負担増は避けたい

- 上記の財政状況から、バス交通確保のために拠出している費用負担増は難しい状況。

津南町の土地・自然特性を踏まえた問題点・課題

津南町の地形条件を踏まえたバス運行の検討が必要

- 路線バスでは入れない危険な地域については、車両形式や運行形態を検討する。

冬期への対応

- 冬期に対応した運行形態・車両、待合所や運行状況等の情報提供を検討する。